

# さんさんだより

兵庫小学校  
算数 少人数TT

令和2年7月27日(第1号)

今年度も、少人数TT担当者2名が、学級担任と協力しながら、算数の指導を行っていきます。また、新型コロナウイルスの影響などで、ご迷惑をおかけしてはいますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年度は、兵庫小学校は、「言葉を大切にし、確かな読みができる子ども」をめざし、国語の研究に取り組んでいます。算数の授業では、自分の考えを、図、式、言葉で、分りやすくノートに書いたり、話し合い活動を通して、友達の考えとの類似点や相違点を見付けたりしていきます。子どもたちが、よりよい考えを探求し、友達のよさをより多く発見できるように支援してまいります。このお便りでは、算数の時間の児童の様子をお知らせしていきたいと考えています。

## (3年生)

「長いものの長さのはかり方と表し方」の学習では、2年生で学習した長さの単位のmm, cm, mからさらに長い単位kmを学習しました。初めに、30cmものさしや1mものさしを使い、長いものや丸いものだと一度で測れず、ずれたり曲がったりする難しさを味わわせ、巻き尺の便利性的を感じとらせました。その後、グループで協力して、身の回りの物の長さの見当を付け、実際に巻き尺を使って教室の中でいろいろな所を測る活動を行いました。



黒板の横の長さ



バケツの周りの長さ

## (4年生)

「角の大きさ」の学習では、つまずきの多いのが、「45度」を「135度」というような分度器の目盛りの読み誤りが多いことです。そこで、授業の導入で、身体を使ったり、扇形の教具を操作したりして、開き具合で「90度以上」「90度以下」を体感させたりしました。そうすることで、徐々に読み誤りが減ってきました。また、三角定規を組み合わせていろいろな角度をつくりました。三角定規の3つの角度をしっかりと覚え、分度器を使わずに計算で角度を求めました。



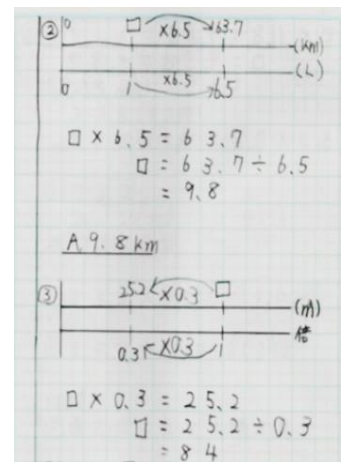
友達と角度の問題を出し合っている様子

(5年生)

1学期の単元の中でつまずきが多く見られ、子どもたちが苦労したのは、「小数のわり算」でした。筆算をする時に、いろいろなルールがあり、整数の時と同じように考えるために、小数点の位置を変えたかと思えば、余りは元の小数点の位置に戻さなければならなかったり、上から2桁の数で表すために、四捨五入したりするなど、子どもたちにとっては覚えなくてはいけないことがたくさんありました。

さらに、この単元から2本の数直線を使って数量を表すことに取り組みました。この数直線は今後の学習でも使っていくので、確実に描けるように指導してきました。子どもたちも、最初は「これを描くのは、面倒だな。」とつぶやいていましたが、この図を口を使ったかけ算に直すと、必ず正しい式が導くことができることに気が付き始めてきました。

夏休みは、特に「小数のわり算」の反復学習に力を入れ定着を図ることが大切と思われます。ご家庭でも、声かけをお願いします。



数直線を表した  
ノートの様子

(6年生)

「分数のわり算」の学習では、わる数の逆数をかけるという公式を覚えるだけでなく、なぜそうなるのかという理由を考えさせました。一人で考えた後、友達と意見交換をして、みんなで公式に近づけていきました。また、文章問題でも、どうしてわり算になるのかの理由を考えさせるように指導しています。

また、「分数のわり算」でつまずきやすいのが、1よりも小さい数でわると、商が「わられる数」よりも大きくなることを理解することです。そこで、「商が割られる数より大きくなる分数を探そう」ゲームを設定しました。代表者に選んでもらいますが、計算はクラス全員で取り組ませ、次第に「1と比べる」という視点がつかめてきたようでした。苦手な単元もゲーム感覚ですと理解しやすくなったようです。これからの指導にも、取り入れていきたいと考えています。



分数カードを選んで  
いる児童の様子

## 親子でチャレンジ♪

1, 9, 9, 5の4つの数字を、この順番通りに、+, -, ×, ÷や( )でつないで、答えが10になる式にしましょう。



1 9 9 5 = 10

答えはうらにあります。